

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370407

研究課題名(和文) 植民地化以前の中国東北地方における文学活動に関する調査と研究

研究課題名(英文) Research and study on literary activities in the north-eastern district of China before its colonization

研究代表者

平石 淑子 (Hiraishi, Yoshiko)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：90307132

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「満洲国」成立以前の中国東北地方の文芸状況を知ること、及び「満洲国」成立後の当地の文化の変容、あるいは連続を知ろうとすることを目的としている。そのため、当時東北の新文学を牽引したと評価されている新聞を主として考察を進めた。考察の対象とした新聞は当地で最も早く創刊された中国語新聞であるといわれる『遠東報』及び半年後に創刊された『盛京時報』(共に1906年創刊)をはじめとし、『哈爾濱時報』『泰東時報』、『国際協報』などである。

研究成果の概要(英文)：Purpose of this study is to find change and/or continuity of the culture in the north-eastern district of China after the establishment of "Manchukuo" by knowing the literary status in the same region before the establishment of "Manchukuo". For that purpose newspapers, which were considered to promote new literature in that region, are mostly studied. The newspapers studied are as follows: "Yuandong-bao" which was considered to be the first paper written in Chinese in this region, "Shengjing-shibao" which followed "Yuandong-bao" after a half year (both of them were first issued in 1906), "Haerbi-shibao", "Taidong-shibao", "Guoji-xiebao", etc.

研究分野：中国近現代文学

キーワード：20世紀初頭の中国東北地方 新聞文学 新文学

1. 研究開始当初の背景

近年ポストコロニアリズムの影響を受け、日本の旧植民地に関する研究が、旧植民地の研究者をも巻き込んで盛んに行われるようになってきた。本研究代表者はこれまで「満洲国」成立直後の、特に哈爾濱における若い左翼作家(東北作家)を主たる研究対象としてきたが、彼らの作品に見える人道主義的なおおらかな側面は哈爾濱という新しい都市の国際性によるものではないか、と考えている。しかしその国際性は一日にして身につくものではなく、彼らの育った環境、受けてきた教育などが大きな影響を及ぼしているはずである。またもし「満洲国」成立以前の東北に独自の文化的環境があったならば、「満洲国」はそれを変容させたのだろうか、変容させたならば、どのように変容させたのか。これは政治的権力と文学との関係を知る上でたいへんに興味深いテーマである。しかしこれまで「満洲国」以前に注目する研究はほとんど為されてきていない。本研究を計画した動機は、以下の二点に集約される。

(1)「満洲国」以前の文化状況を知ること、「満洲国」による文化の変容があったのか否か、あったとすればどのようなものであったかを知る。このような作業、及び考察は、「満洲国」研究に必要不可欠なものであるが、これまでじゅうぶんに為されてきているとは言えない。

(2)これまで本研究代表者が主たる研究対象としてきた東北作家たちの作品が、どのような文化的背景の下に生まれたのかを知る。東北作家に対する研究もまだ十分とは言えず、この作業、及び考察を通じ、彼等の文学に対する理解はより深まるはずである。

2. 研究の目的

申請の段階に於いて、目的として挙げたのは以下の三点である。

(1)植民地化以前の中国東北における文芸活動の様相を知る。

特に東北に於いては多民族が混在し、互いに影響関係にあったという、「関内(中国本土)」には見られない特殊状況を考慮しなければならない。

(2)植民地化以前の東北における文芸活動の背景となった文化的、社会的基盤について知る。

(3)植民地化以前の文化的基盤に配慮しながら、植民地化以前と以後の文芸活動を比較し、連続の有様、もしくは断絶の様相を知り、政治や権力と文学の関係について考察する。

3. 研究の方法

先ず、現在のところ中国東北地方の文学に関して最も充実した研究書である『黒龍江文学通史』(2002)の以下の時代区分を基本として、研究を進めた。

(1) 清末民初(1906~20)

(2) 九一八(満洲事变)まで(1921~31)

(3)「満洲国」時期(1932~45)

(4) 国内戦争(解放戦争)期(1946~49)
本研究が対象とするのは、「満洲国」建設以前、即ち上記の(1)(2)の時期である。従って以下に示す作業、考察も基本的にそれに従っている。

(1) 植民地化以前の「満洲」における文芸活動に関する情報の収集、整理

① 図書資料による情報収集と整理

『黒龍江文学通史』(2002)、『中国淪陥区文学研究』(2007)を中心に

ア 人名

イ 団体名

ウ 報刊名

について、整理を行った。

将来的にはデータベース化を考えているが、資料によって情報にかなりの異同があるため、更に精査する必要がある。このようなデータベースは現在のところ中国にも例が無く、完成すれば中国東北の文芸を考える上で大きな貢献が期待できる。

当時の新聞資料による情報の収集と整理

『黒龍江文学通史』の、東北の新文学を牽引したのは新聞文学である、という記述に基づき、新聞掲載の文芸作品、特に「小説」にジャンル分けされたものに焦点を絞った。

対象とした新聞は以下の通りである。括弧の中は創刊時期と発行場所を示す。

ア 遠東報(1906.3、哈爾濱)

イ 盛京時報(1906.10、奉天)

ウ 泰東日報(1911.2、大連)

エ 国際協報(1919.11、哈爾濱)

オ 濱江時報(1921.3、哈爾濱)

以上の新聞を調査対象に選んだ理由は以下の通りである。

a 「満洲国」成立以前(1900年代~20年代)に創刊されていること

b 文芸作品が掲載されていること

c 資料の保存状態が比較的良好で、ある程度まとまった期間の観察が可能であること

d 対象年代にある程度知名度のある、購読者数の多い新聞であること(各研究書、論文にしばしば名前が挙がることを基準とした)

上記ア~オのうちオ以外は交付金を利用し、電子版を購入した。オに関しては国会図書館関西館の所蔵するリプリント版を利用した。

前述の時代区分に従い、まず1910年までの文芸、特に対象を「小説」に絞り、題名、作者などの情報をピックアップし、一覧に整理した。この作業で対象となる新聞資料は、上記創刊年に鑑み、ア遠東報、イ盛京時報の2紙のみである。

次に1920年までの情報を整理したが、結局この対象資料も、創刊年から、上記ア遠東報、イ盛京時報にウ泰東日報を加えるに留ま

った。

当初は続いて 1920 年代についても整理する予定であったが、1910 年代までの情報量が予想外に多く、研究期間内に整理を完了することができなかった。エ国際協報、オ濱江時報、に関しては、今後更に作業を継続し、「満洲国」成立までの東北全体を概観できるよう、考察を進めていく予定である。

(2) 研究協力者との情報交換

研究期間内に武漢(2014)及び哈爾濱(2015)で東北作家研究者(湖北大学教授梁艷萍氏、黒龍江大学教授叶君氏、黒龍江大学出版社章海寧氏ら)と交流する機会を得た。武漢では東北作家の中の代表的な女性作家、蕭紅に関する発表を行い、現地の研究者や大学院生、大学生等と意見交流を行う事ができた。たまたま 2014 年に蕭紅の生涯を描いた映画「黄金時代」が中国で公開され、生誕 100 周年(2011 年)以来の蕭紅ブームが起こっていたが、残念なことに、蕭紅以外の東北作家に関する関心は低く、また「満洲国」以前に関する関心は更に低く、新たな資料の発掘などには至らなかったのが残念である。

(3) 3-(1)で収集、整理した情報に関する分析と考察

研究期間内に 2 編の論考をまとめ、論文として発表した。

研究の進捗に従い、まず 1910 年までを対象とした(1)「20 世紀初頭の中国東北地区における文芸状況について - 『盛京時報』を中心に」(下記 5 -)を発表した。

『盛京時報』のみを対象とした理由は、1906~10 年までの時期を通して観察できる資料が『盛京時報』のみであったこと、『黒龍江文学通史』が『盛京時報』が創刊した文芸副刊「神皋雜俎」に対し、東北の新文学をリードしたと非常に高い評価を与えていたことによる。考察の内容については以下の「4. 研究成果」の項目で述べることにする。

翌年上記(1)の考察を踏まえ、1910 年以降 1920 年までを考察の対象とした(2)「20 世紀初頭中国東北に於ける新聞の文芸欄について 『遠東報』、『盛京時報』の紙面から」(下記 5 -)をまとめ、発表した。内容については同じく「4. 研究成果」の項で詳しく述べる。

この 2 編の論考により、1906 年~20 年までの文芸に関する状況を概観することができた。

(4) 外国など、多民族との影響関係を考察する

「20 世紀初頭中国東北に於ける新聞の文芸欄について 『遠東報』、『盛京時報』の紙面から」(下記 5 -)によって、この考察の入口にたどり着いたと言える。

『遠東報』はロシア人によって創刊された新聞である。経営者は中東鉄路関係者、即ち

帝政ロシア政府の関係者であったから、その経営方針も保守的であったらしい。華京碩「満洲に於ける初期の新聞」(2015)によれば、上海から主編として招かれた中国革命同盟会員が、その思想の後進性に呆れて職を辞した、とある。一方『盛京時報』、『泰東日報』は共に日本人が経営しており、北満と南満に分かれて発行されたこれらの新聞の差異、また『濱江時報』、『国際協報』など中国人経営の新聞との差異なども興味のあるところである。

これらの問題に関しては、研究期間内に追求しきれなかったが、今後研究、考察を継続していく考えである。

(5) 中国共産党の文芸政策の影響に関する考察

中国共産党の成立は 1921 年のことである。もちろんそれ以前に哈爾濱を拠点としてロシア、あるいはソ連の共産党との往来はあったのだが、今回の研究ではそこまで考察が至らなかった。また、観察した紙面からは、少なくとも 1920 年まで、共産党の影響が伺えるような作品、もしくは記事を発見するに至っていない。

1930 年代初期の『国際協報』には左翼的な傾向が見られるため、今後 1920 年代を考察する上での重要な課題としたい。

4. 研究成果

(1) リストの作成、情報の整理 データベース作成の準備

「3. 研究の方法」で述べた、作者、団体、報刊などのリストは、既に述べたように、基づく資料の情報にかなりの異同があるため、今後可能な限り精査し、データベースとして公開する予定である。

ただし、今回の調査で分かったことは、これらのリストに名前が挙がっている人名は、1920 年までの新聞文学にはほぼ登場しないということである。『黒龍江文学通史』は、初期の段階では「叙事文学」に署名をする習慣が無かったとするが、それでも署名は皆無ではなく、今後これらの署名の人物を特定する努力は続けていきたいと考えている。

このデータベースが完成すれば、東北全体の文芸の状況が概観できるだけでなく、今後東北の文学を研究する上でたいへんに利用価値の高いものになるはずである。

(2) 2 編の論考

本研究に関係して、既に何度も述べてきたように、1910 年までを対象とした(1)「20 世紀初頭の中国東北地区における文芸状況について - 『盛京時報』を中心に」、及び 1920 年までを対象とした(2)「20 世紀初頭中国東北に於ける新聞の文芸欄について 『遠東報』、『盛京時報』の紙面から」をまとめ、発表した。

(1)では『黒龍江文学通史』が『盛京時

報』に与えた、『盛京時報』は瀋陽（奉天）で創刊されて以後、『白話』欄を設け、故事、寓言を発表した。1907年初、『白話』欄を『小説』欄に改め、その欄の趣旨も、『古今の英雄豪傑、孝子忠臣、また東西の学問理論、様々な書物、およそ人の心や世の道理に関するものを選び、保守的気風を取り払い、社会に貢献するものを選ぶ』とし、歴史故事、小説を掲載し、読者に対して政治的改革、変法維新の教育を行った」という高い評価について、実際の紙面から検証を行った。その結果、「白話」から「小説」への過程は言われるほどに簡単でスムーズなものではなかったことが分かった。

（1）の論考を踏まえて（2）では、1910年を越えてようやく見ることが可能となった北満の『遠東報』を考察に加え、北満と南満の当時の2大紙を観察することで、1920年までの東北全体の状況を見ようと試みた。その当初の意図はある程度達成できたと自負している。また既に述べたように『遠東報』はロシア人経営の新聞であるが、『盛京時報』は日本人が経営する新聞であったことから、この紙面の違いはあるいはロシアと日本の文芸に対する考え方、姿勢の差異に繋がる可能性も見えてきた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

①平石淑子「20世紀初頭中国東北に於ける新聞の文芸欄について『遠東報』、『盛京時報』の紙面から」『総合社会科学研究』第3集第8号（28号）（総合社会科学会）査読有、2016.3、pp.15-28

平石淑子「蕭紅：魯迅先生の思い出（下）- 翻訳と注釈」、『日本女子大学文学部紀要』第65号、査読無、2016.3、pp.117-135

平石淑子「20世紀初頭の中国東北地区における文芸状況について - 『盛京時報』を中心に」、『お茶の水女子大学中国文学会報』第34号、査読有、2015.4、pp.1-18

平石淑子「蕭紅：魯迅先生の思い出（上）翻訳と注釈」、『日本女子大学文学部紀要』第64号、査読無、2015.3、pp.123-144

〔学会発表〕（計4件）

平石淑子「蕭紅の作品世界」、中国湖北省民族学院、2014.11.18

平石淑子「蕭紅に対する評価をめぐって」、中国湖北大学、2014.11.17

〔図書〕（計1件）

中国一九三〇年代研究会（平石淑子他）『中

国現代散文傑作選 1920 - 1940 - 戦争・革命の時代と民衆の姿』、勉誠出版、2016.2、447頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

平石 淑子 (HIRAISHI Yoshiko)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号：90307132